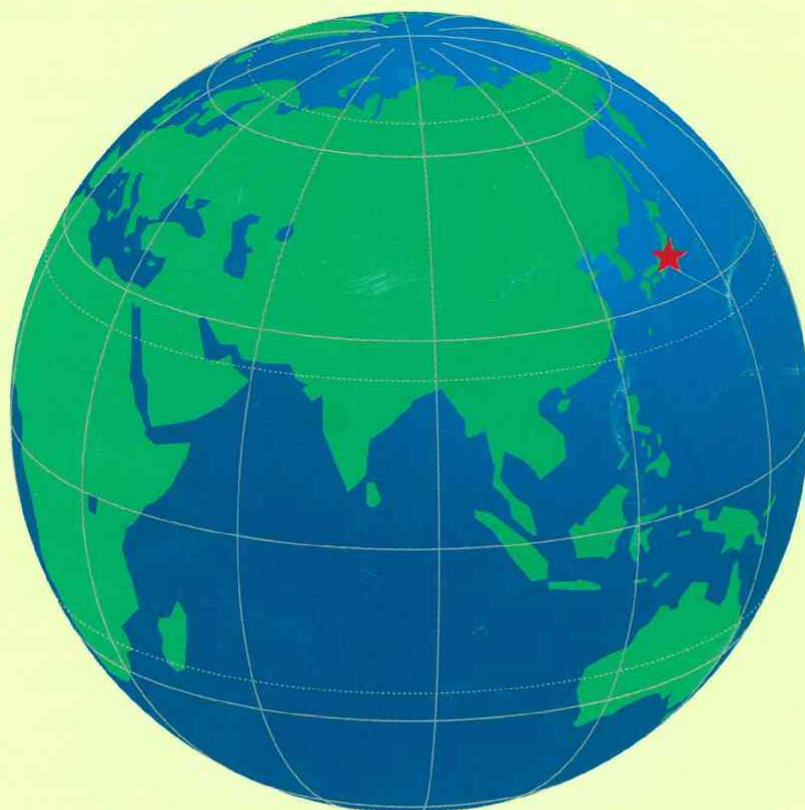


Asian Paleoprimatology

Volume 2: 2002



**Primate Research Institute
Kyoto University, Japan**

Asian Paleoprimatology

Vol. 2

後氷期におけるニホンザルの成立過程の総合的研究
History of Japanese Macaques during Post-Glacial Period

- 1) 平成 11 年度～ 13 年度
科学研究費補助金（基盤研究（B）・（1））
（課題番号 11440249）
- 2) COE 形成基礎研究費
（課題番号 10CE2005）

2002

目次

1. 古代遺跡から出土したニホンザルに基づく分布の変遷.	1
本郷一美・藤田正勝・松井 章	
2. 最古のニホンザル.	13
相見 満	
3. 古代遺跡出土のニホンザル (<i>Macaca fuscata</i>)の歯.	21
茂原信生・金子浩昌・岩本光雄	
付記 ニホンザルについての考古学の概要.	35
金子浩昌	
4. ニホンザルの分布の変遷 -- 主に、奈良時代以降に焦点をあてて.	37
三戸幸久	
5. ニホンザルの空間的変異。-- 生体メスの頭蓋計測.	45
毛利俊雄・西村 剛	
6. ニホンザルの成立に関する集団遺伝学的研究.	55
川本 芳	
7. 古代ニホンザルの DNA 分析.	75
吾妻 健・石上盛敏	
8. ニホンザル採食植物リスト.	89
三戸幸久	
9. 後氷期におけるニホンザルの頭蓋骨形態の小進化.	115
黒田末壽	
付記 ニホンザル頭蓋骨の非計測的変異形質について.	122
黒田末壽	

はしがき

本研究は、後氷期におけるニホンザルの動態をつかむために、多方面から追求してみようというのが出発点である。近年、遺伝子の研究が急速な進展を遂げ、縄文時代の古骨からDNAの抽出・増幅が可能になったことにより、形態だけの研究に加えて、研究の幅が広がったことによってこのような研究が可能となった。それぞれの分担者が、各自の専門の分野で研究を行い、ニホンザルの分布の変遷や形態変化、ニホンザルの生活などについて研究した。

今回の科学研究費やCOE形成基礎研究費での研究によって、ニホンザルに関する年代を越えたいろいろなデータが集積された。更新世から近代に至るまでの古代遺跡から出土しているニホンザルの分布状況の時代的な変遷は、遺跡の数によるというバイアスがかかるものの、ニホンザルの利用の状態や分布状態を反映しており、貴重なデータである。ニホンザルの歯に関する研究は、データ自体が少なく、地方差などの研究に資するものとなろう。更新世のニホンザルの移入に関する検討もニホンザルの進化の研究に重要なものである。頭蓋骨の変異に関する研究は形態からの発言として遺伝子の研究とあわせて考えると興味深い。また、ニホンザルの食料に関するデータは、これからのニホンザルの生態学的研究には欠かせないものになるであろう。遺伝子の研究では、縄文時代の古骨からの取り出しの技法の開発が行われ、これからますますこのような研究が行われることになろう。また、現生のDNA研究に基づくニホンザルの分布の変遷の研究は、ニホンザル研究に全く新しい局面をもたらしたものである。

今後、さらに多方面からより詳細にニホンザルを研究していくことによって、ニホンザルという我々に身近な動物の来し方・行く末を考えていくことが可能になるであろう。本研究がそのきっかけになれば幸いである。

本研究に当たって、個々の名前は挙げる余裕がないが、資料の収集や利用など、多くの方々のご協力をいただいている。この場を借りて心から御礼申し上げます。また、本巻をまとめるに当たり霊長類研究所の高井正成博士には大変なご協力をいただいた。厚く感謝いたします。原稿のとりまとめや事務的な作業などは系統発生分野の佐藤阿佐子さんのご協力をいただいた。心から感謝いたします。

平成14年4月

京都大学霊長類研究所

茂原 信生

Asian Paleoprimatology Vol. 2

2002年4月発行

編集者：茂原信生・高井正成

発行：京都大学霊長類研究所

系統発生分野

〒484-8506

愛知県犬山市官林41

電話：0568-63-0536

印刷：有限会社 出版情報技術サービス

〒500-8358

岐阜県岐阜市六条南2-4-9

電話：058-278-6190